

全国発信記事 ▲▽▲▽ 八戸支部 — 株式会社 丸吉 —

「第八拾壹正進丸」が八戸港から出港！

大西洋漁場まで約 40 日間

6月11日、八戸港から株式会社丸吉の遠洋マグロはえ縄漁船「第八拾壹正進丸」（462トン）が大西洋の漁場へ向け出港した。

本船は、省エネ構造により燃油の年間使用量を削減するとともにインマルサットF Xを搭載し、船内においてインターネット環境を整備した

出港を間近に控え、尾崎三夫漁労長は「新船を任せられたからには頑張るしかない。後継者の確保・育成に苦慮しているが、安全運航、大漁を目指し来年の5月頃までには八戸港に戻ってきたい」と力強く語った。

見送りには乗組員の家族や関係者が集まり、5色のテープをつないで航海の安全と大漁を祈り、本船は汽笛を鳴らし港内を周回することで見送りに応えた。

第八拾壹正進丸は太平洋を横断しパナマ運河を通過、約40日間掛けて大西洋漁場に向かう。

遠洋マグロはえ縄漁船の操業風景

▽▲投縄作業と揚げ縄作業▲▽

航海期間が長いことで知られる遠洋マグロ漁船だが、従来の長期航海にこだわらず、最近は1航海の操業を半年で切り上げて帰国、水揚げする船も増えている。メバチマグロやキハダマグロを狙ってペルー沖やインド洋、さらにミナミマグロを狙いニュージーランド沖、クロマグロを狙って大西洋など、航路の往復だけで長期となる遠洋漁船だが、操業期間の途中や帰路には、外国の港で燃料や食料を補給し、外国の土地で見聞を深める楽しみもある。

操業は、浮はえ縄漁業なので、餌をつけて仕掛けを投入する時間が約4時間。縄を揚げ時間は投縄の約3倍となる。